

いなば西郷

工芸の郷

ご挨拶

工芸の魅力と「いなば西郷 工芸の郷」

一般社団法人 西郷工芸の郷あまんじゃく
代表理事

北村 恭一

人が手で創り出す工芸は文化です。文化は人間が人間らしく生きていくうえで必要な心の栄養の一つとして、人の暮らしを豊かにします。人間の生活が急速な文明の進歩に追われ、精神的な疲労を覚えるとき、人の手によって作り出される工芸作品は、暖かく人に寄り添い語りかけてくれます。工芸作品には物語が見え隠れします。その向こうに作家の手や気持ちが、想いや顔が見えます。手に入れた時の場面、使い続けた歴史、等々の物語が浮かびます。それが一品制作の工芸作品の、美術・芸術性とは違った魅力でもあるのです。

作品のひとつひとつに込めた作家の想いが生み出す工芸品。工芸品づくりは分業が当たり前のなかで、西郷谷の作家が作る作品は、分業がほとんどなく、一人の作家のすべてが投影された工芸作品です。陶芸、木工、ガラスなど、西郷谷の工芸作家達がつくる工芸作品には、そこに独自性があると考えます。西郷谷には、豊かで静謐な自然と、昔からよそ者に優しい大らかな人間性があり、作家の感性や自由を育む風土があると思います。

西郷工芸の郷は人間国宝になられた前田昭博（白磁作家）さんが提唱されました。生まれ故郷の西郷で若くして開窯され、孤独の中で苦勞を重ねて独自の世界を創り出されました。その過程で、切磋琢磨できる仲間や、刺激・示唆を受けられる指導者の

訪れる環境が欲しかったとの思いから「工芸の郷」という仲間づくりを発想されました。氏の構想を聞かれた行政や商工会の皆様が賛同され、地域で様々な活動を展開している「いなば西郷むらづくり協議会」が地域における組織づくりを引き受けました。そして2016年秋、「工芸の郷」の推進母体となる一般社団法人が誕生しました。行政による経済的支援も受けて、若い有意の新人工芸作家の招へいも始めています。2017年春には第1号の花井健太さんが入郷し、地域に溶け込みながら順調に作家活動を始めています。今後、20名規模の様々な分野の工芸作家が活躍する「西郷工芸の郷」をめざして進んでいこうとしています。工芸作家だけでなく、批評家、知識人、ファンなどの集まる文化のるつぽを作るのが夢です。

現在、工芸の郷には観光客やファンに訪ねていただけるような施設がありません。作家は工房で日々制作に明け暮れていますが、その作家たちと親しく交流していただける「西郷工芸まつり」を毎秋当地にて開催します。ぜひお訪ねください。さらに近い将来、お客様に訪ねていただける交流・研修施設を作りたいと願っています。そして1200人の住民が暮らす西郷谷が、工芸という核を基に、元気なむらづくりができればと望んでいます。

2018年 春

いなば西郷工芸の郷へかける想い

重要無形文化財「白磁」保持者

前田 昭博

ここ西郷地区は、鳥取市街地から少し山あいに入った自然豊かなところ。180年前に焼き物に使える土を求めて島根の地から陶工が入って来て「牛ノ戸焼」が開かれました。そして70年前に「因州中井窯」が起こり、続いて40年前に私の「やなせ窯」が出来ました。近年は空き家を改築してガラス工芸「ukiroosh.」と、木工芸「工房このか」が、相次いで工房を構えました。西郷は陶芸の原材料が豊富に採れるところではありませんが、牛ノ戸焼が誕生してから今日まで、ものづくりを支え見守る風土があります。このような状況を見て、多くの作家がこの地に入って来てものづくりを始めると、素晴らしい工芸の郷が出来るのではないかなと思うようになりました。そして昨年、西郷地区の人々とともに西郷工芸の郷をスタートさせ、移住作家の第一号となる陶芸の「花輪窯」が入郷しました。

西郷工芸の郷の特徴は、同じ材料を使い手法も似通っている従来の産地型とは異なり、必要な材料を取り寄せて自由な考え方

のもとに制作できるところにあります。工芸家がひとつの地域に集まることで、互いに切磋琢磨し影響を与え合うことができますし、高い技術力や最新の情報を得るために、協力して専門家や文化人を呼んで講演会などを開くこともできます。また毎年、これをきっかけとして地域の人々が主体的に参加する工芸祭りを開催しています。これまでに鳥取県内外から多くの方に訪れていただき、作品を買い求めていただいています。素材の持ち味を生かし精魂込めて作ったものを、暮らしに取り入れ使用することで心の豊かさや明日への希望につなげて頂ければ幸いです。日本の誇るべき工芸は、多くが地方で作られてきました。これから何人かのものづくりの人を迎え、互いに刺激し合いまた時には助け合うことで、新たな時代の工芸をこの西郷から発信していきたいと考えています。静かな里山の自然の中で、たくさんの工芸家が魅力ある作品を制作する西郷工芸の郷を、ぜひ一度訪れてみてください。



いなば西郷工芸の郷の 工芸作家たち

牛ノ戸焼

小林孝男 小林遼司



江戸時代の後期・天保8年(1837年)、この土地に良質の粘土が出る事を知った島根県江津市出身の小林梅五郎が牛ノ戸焼を開窯しました。初代より3代までは主として日用品を製作していました。昭和6年(1931年)、「五郎八茶碗」が縁で吉田璋也氏の指導を受け国内では最初の新作民藝運動の窯となりました。初代から変わらず地元産の粗土を水簸作業を行って陶土として用い、釉薬も藁灰・木灰等自家製で、登窯で焼成します。地元産の粘

土と灰を使う事によって、作品に深みが出るように工夫しています。緑と黒の染分け、三方掛、梅等の素朴な絵柄、日々の食卓に耐え丈夫で使い易い器である、という代々の日用品作りに対する想いは変わりません。そして、現代の生活様式に合った器作りを目指して、6代・7代共にこれからも続けていきたいと思っています。西郷工芸の郷も一時のブームに終わること無く、細く長く続いていく事を望んでいます。

小林 孝男

因州中井窯

坂本章



中井窯は1945年に登り窯を築き、鳥取民藝を推進された吉田璋也氏の指導の下、初代と二代が新作民藝運動に参加し民藝の窯元としての礎を築きました。現在は民藝とデザインに取り組み、地元の材料に拘りながら緑、黒、白の釉薬を掛け分けた技法で作陶しています。又、民藝のみならず伝統工芸にも想いを向け作家として青瓷作品の制作を進めています。伝統と現代に向き合い自己表現する制作は難しくもありますがとても楽しい事でもあります。そんな中井

窯もある西郷地域に、いろんな分野の工芸家や文化人が集まり、互いに切磋琢磨しながら、良い作品が生まれる「西郷工芸の郷」であってほしいと思います。自然に恵まれコンパクトでも、充実した文化の香りのする工芸の郷になれば制作者のみならず、地元の人達も楽しんでいただける素敵な地域になると思います。この地に生まれ育ち工芸に身を置く者として、今この時代に西郷で生きご縁を頂き私自身も成長していきたいと思っています。

ukiroosh. 矢野志郎 竹中悠記



西郷工芸の郷構想を聞いたのは、私たちがここ西郷を生活と制作の拠点として何年経った頃でしょうか。自分たちの生活・制作で手一杯な私たちには、少し遠く感じる話だった事を覚えています。私自身、「竹中悠記」一作家として本格的に制作を始めたのが、引っ越してきた年の2009年9月の事です。それからありがたい事に順調に仕事を頂き、今日になります。それは、そんな制作と生活の基盤である地域が、しっかりと静かに支えて下さったのだと今はそ

う思えるまでになりました。

インタビューなどで地域の魅力を尋ねられる事がありますが、それを言葉で表わせる程上手く喋れない私は、「離れてみてから気付くんですよ」と笑いながら答えます。食べた物から身体が作られるように、環境から作品が出来ていくのだとも思います。より良いものを生み出す地として作り手に広く開き、生まれた作品と人を繋ぐ場として西郷工芸の郷が広がっていく事が楽しみです。 竹中悠記

工房このか 藤本かおり



飛騨高山にて木工を学び、家具・建具屋で働いた後、鳥取県八頭郡若桜町の木地師、山根肅氏に師事しました。2007年に「工房このか」を設立し、木工轆轤を使い器や茶筒、おままごとセットなどを作っています。主に県産材を使い、木地から仕上げの塗装（漆・自然塗料）までを1人でこつこつと制作しています。長い長い年月をかけて育ってきた木を大切に使い、丁寧なものづくりをすることを心掛け、ものづく

りをしています。また、木を育て山を育て豊かな森林を次の世代に繋いでいきたいと思い、林業について学び、木育にも取り組んでいます。

素敵なご縁でこの地に工房を構えましたが、西郷の実り豊かな自然とあたたかい人々の心に囲まれて制作していくことは、自分の作品に深みを与えて下さっているとしみじみと感じる日々です。

いなば西郷工芸の郷へ 移住を決めた工芸作家

花輪窯 花井健太



陶芸の修行が翌年に明ける予定で独立する場所を探している折、「西郷工芸の郷」という構想がある事を知りました。西郷地区に訪れ最初に感じたのは、自然が豊かで静か。制作は落ち着いた場所で、発表は中央ですればいいと思っていた私にとってはとても良い環境でした。何度か訪れるうちに地域の方々とも話す機会があり、文化に対する想い、工芸の郷へかける想いを聴き、それを誰かに任せるのではなく自分達の手で創っていこうという行動力に心を打たれここで制作していこうという気持ちになり移住を決意しました。実際に独立をする際には鳥取県や鳥取市からの支

援があり、窯を開くのにかかる費用が抑えられるというのもとても有り難かったです。慣れない環境での苦労もありますが、身の周りにある景色からインスピレーションをもらい、地域の方々に支えられながら日々制作に打ち込めています。今後はこの地で自然や地域の方々と触れ合い、自分にしか出来ない表現を見つけていきたいと思っています。

作家各々の思考と作品の交流を重ねて起こる化学反応が、西郷工芸の郷をどう成長させるか。自分もその一躍を担えれば嬉しく思います。

移住を希望・検討する方へ

現在西郷地区では、工芸作家として活動してみたい方の移住をお待ちしています。西郷はどんなところか、見てみたい、体験してみたいという方にご利用いただける施設をご用意しておりますのでご利用ください。

西郷工芸の郷ゲストハウス 多加牟久の宿 よりしろ

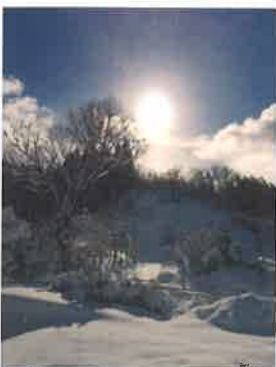
〒680-1252 鳥取市河原町本鹿 125

■体験料金（平成 30 年 2 月現在）
5 日間（4 泊 5 日）までは一律 7,500 円
6 日目以降は 1 日につき 1,500 円加算
※宿泊期間は最長 1 ヶ月

■お申し込み・お問い合わせ先
お申し込み先：一般社団法人 西郷工芸の郷あまんじゃく
問い合わせ先：西郷地区公民館
TEL:0858(85)0445 FAX: 0858(85)0591



西郷地区のご案内



発行 平成 30 年 2 月
一般社団法人 西郷工芸の郷あまんじゃく

連絡先：鳥取市立西郷地区公民館
〒680-1225 鳥取県鳥取市河原町牛戸 15-1
TEL:0858(85)0445 FAX:0858(85)0591

このパンフレットはとっとり県民活動活性化センターの補助金を活用して作成しました

表紙題字：人間国宝 前田昭博 / デザイン・イラスト：友田恵梨子

無限大
きらり∞!
いのち輝く西郷工芸の郷
みんなでエンパワメント!

— 第2回 いなば西郷工芸の郷 ミニフォーラム —

気付こう! 活かそう!
地域とあなたの可能性

ゆ っ か っ
「湧活」のすすめ

あんめ ときえ

講演：安梅勅江氏

後半 対談

安梅勅江氏 × 前田昭博氏

(筑波大学医学医療系教授)

(重要無形文化財「白磁」保持者)

日時：2018年8月25日(土) 16:00~18:00 ※開場 15:30~

場所：西郷地区公民館 大ホール ※予約不要・入場無料

※乳幼児をお連れになりたい方は西郷地区公民館までご一報下さい。

いなば西郷工芸の郷は、いのちを輝かせるエンパワメントの泉です。豊かな自然、温かい人々、世界一流の芸術がつむぐアートの聖地は無限大∞の可能性を秘めています。

30年間、アフリカのジャングルから離島の限界集落まで、赤ちゃんからお年寄りまで、人びとと地域の力を引き出すエンパワメントの実践と研究に携わってききました。

エンパワメント（湧活）とは、人びとに夢や希望を与え、勇気づけ、人が本来持っている素晴らしい、生きる力を湧き出させることです。

人は誰もが、素晴らしい力を持って生まれてきます。そして生涯、素晴らしい力を発揮し続けることができます。その素晴らしい力を引き出す事がエンパワメント、ちようど清水が泉からこんこんと湧き出るように、一人ひとりに潜んでいる活力や可能性を湧き出させることが湧活です。

一人ひとりが本来持っている素晴らしい潜在力を湧き

■懇親会のご案内

講師の先生を囲んで懇親食事を開催します。奮ってご参加下さい。

日時 8/25 (土) 18:30 - 20:30

※懇親会参加費 ¥2,000- 要予約

※申込先：西郷地区公民館 0858-85-0445

※定員50名 ※申込×切 8月17日

あがらせ、顕在化させて、活動を通して人々の生活、社会の発展のために生かしていきます。地域など組織では住民一人ひとりに潜んでいる活力や能力を上手に引き出し、この力を住民の成長や地域の発展に結び付けるエネルギーとします。これが組織、集団として人に求められる湧活です。

みなで湧活プロになり、「きらり∞いのち輝くいなば西郷工芸の郷づくり」をご一緒にしませんか？



あんめ ときえ
安梅 勅江

国際発達ケア：エンパワメント科学研究室教授

国際保健福祉学会会長 日本保健福祉学会会長

筑波大学医学医療系教授

生存科学研究所理事 保育パワーアップ研究会代表

みらいエンパワメントカフェ主催

東京大学医学部保健学科卒 保健学博士

「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学」

「コミュニティ・エンパワメントの技法」など著書多数。

